

平成 28 年度 学校総合評価

1 今年度の重点課題に対する総合評価

学校の現状を踏まえ、3項目の重点課題を取り上げて取り組んだ。年度の初めに設定した数値目標については、どの項目も達成することができた。各重点課題の評価は次のとおりである。

(1) 合理的配慮の観点に基づく一人一人に応じた指導・支援の充実

学期ごとに一人一人の児童生徒について、個別の指導計画の検討会を行い、実態に応じた合理的配慮や指導の手立て等の検討、学習状況等の振り返りによる合理的配慮の検証、次年度の目表設定や支援について検討を行った。また、全体研修会や授業研究を通して学校や学習場面における合理的配慮の具体について学び、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実につなげることができた。

(2) ICT機器を使った指導支援の充実

外部講師を招いてICT機器を活用した学習指導についての研修会を行い、ICT機器の特性や利便性を踏まえた授業の設定の大切さや効果的な提示、補助具等などについて学んだ。実際の授業場面での活用の仕方を知ることができ各自の授業に取り入れる機会となった。実践の成果を「ICT機器活用事例集」としてまとめ、教員相互の学びに役立てると共に、児童生徒の指導支援の充実につなげることができた。

(3) 歯磨きや口腔ケアの充実

個々の実態に応じて個人目標を設定し、達成に向けて日々の活動に取り組むと共に、定期的にチェック週間を設定し各教室で目標の達成状況をチェックした。また、口腔衛生に関する全校集会や昼食後の「歯磨き広場」の開催、歯科衛生学院生による歯磨き教室や染め出しの実施に取り組んだ。児童生徒は、意識して丁寧な歯磨きができるようになったり、落ち着いて歯磨きを受け入れることができるようになったりした。また、11月の検診では、歯肉炎等口腔ケアの改善がみられた児童生徒もいた。

2 次年度へ向けての課題と方策

今年度の重点課題の設定目標値は達成したが、どの項目も定着や発展を図る必要がある。次年度に向けた方策等については、以下のとおりである。

(1) 児童生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援について、個別の教育支援計画や合理的配慮を表記した個別の指導計画に基づき、授業実践を積み重ねる。また、それらをPDCAサイクルで見直しながら、さらに指導・支援の充実を図る。

(2) 児童生徒の実態に合わせたICT機器活用を一層推進するために、授業研究、活用事例の紹介等を継続して行う。また、日々新しくなるICT機器に関する情報について専門家から助言をいただく。

(3) 歯磨きが習慣となるように指導を継続すると共に家庭との連携を図り生涯を通じた健康づくりに向けて一貫した実践をすすめる。また、口腔ケアに関わる基礎的な理論や実技について教員研修の充実を図る。

学校アクションプラン

平成28年度 富山総合支援学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動、その他	
重点課題	合理的配慮の観点に基づく一人一人に応じた指導・支援の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 個々の児童生徒の障害の状況や実態に応じて、合理的配慮を行い、指導の充実を図る必要がある。 児童生徒の障害が重度重複・多様化しており、一人一人の教育的ニーズに応じて、具体的な支援方法を明示した指導・支援の充実がより必要となっている。 	
達成目標	合理的配慮を踏まえた個別の指導計画の検討会 児童生徒一人につき2回以上	合理的配慮についての全体研修会 2回 授業研究会・事例検討会 各学部8回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成の手引きに合理的配慮の観点を盛り込む。 児童生徒一人一人の実態に応じた合理的配慮を検討し、授業における指導の手立てを整理する。 指導案の形式やワークシートを示し、合理的配慮の位置づけや改善点が明確になるようにする。指導場面や指導内容、指導の手立て等を検討する。 関係教員で一人一人の合理的配慮についての検討会を行い、必要に応じて見直しを行う。 実践事例をまとめ、事例報告集を作成する。事例報告を中心にした、校内報告会を行う。 外部講師による研修会や外部研修の伝達、外部の指導事例の紹介等の研修をして、合理的配慮についての理解を深める。 	
達成度	合理的配慮を踏まえた個別の指導計画の検討会の実施回数 児童生徒一人につき5回	合理的配慮についての全体研修会実施回数 3回 授業研究会・事例検討会の実施回数 各学部 9回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○合理的配慮を踏まえた個別の指導計画の検討会 <ul style="list-style-type: none"> 各学期当初の個別の指導計画の検討会で、児童生徒の実態に応じた合理的配慮や授業における指導内容、指導の手立て等を検討した。 各学期末の個別の指導計画の検討会で、学期ごとの学習を振り返り、児童生徒の実態に応じた合理的配慮や授業における指導内容、指導の手立て等が適切であったかどうかを検討した。学年末には、次年度の指導目標、手立て、児童生徒一人一人の実態に応じた合理的配慮等について検討を行い、次年度への指導に生かしていく。 合理的配慮の観点を盛り込んだ個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成の手引きを改善し、教職員間の共通理解を図った。 ○合理的配慮についての全体研修会、授業研究会・事例検討会 <ul style="list-style-type: none"> 各学部、寄宿舎研究の初回に、昨年度までの研究を受け合理的配慮についての研究を行った。また、第8回職員会議で校長より全国の動向について講義を受けた。 上越教育大学教授河合康先生による障害児教育史と合理的配慮の背景についての講義を受け、研修を行った。(6月) 各学部・寄宿舎で、指導案に基づいた授業の実施、ビデオによる振り返りなどを定期的に行い、授業研究や事例研究を進めている。 実践報告会の実施、実践記録集の発行を通して、研修、研究の成果を共有し、児童生徒の一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実を図る。 	
評 価	A	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 合理的配慮が項目ごとにまとめられておりよかった。 実践記録集は、本校の教育環境におけるノウハウの蓄積である。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 合理的配慮の授業以外の観点についても検討を行い、保護者との合意形成をすすめる必要がある。 児童生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援について、個別の教育支援計画や合理的配慮を表記した個別の指導計画に基づき、授業実践を積み重ねる。また、それらをPDCAサイクルで見直しながら、さらに指導・支援の充実を図る。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

平成28年度 富山総合支援学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学習活動	
重点課題	ICT機器を使った指導支援の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒は障害の特性から、他者へ働きかけたり、発信したりする方法が限られていることが多く、学習活動への主体的な参加が難しかったり、コミュニケーションが広がりにくかったりする。それを補ったり、活動の幅を広げたりするため、ICT機器等の支援機器を使用した指導支援の充実を図る必要がある。 ・VOCA、ステップバイステップ、クイックトーカーといったスイッチ教材やタブレット端末が徐々に配備されてきている。 ・昨年度外部講師によるICT機器活用の研修会を行い、基本的な知識や技能面の研修を行い少しずつICT機器を使った授業等が行われるようになっており、授業への活用の幅を広げる必要がある。 	
達成目標	ICT機器活用に関する研修会 3回以上	ICT機器活用例 15事例
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・VOCAやスイッチ教材、タブレット端末、電子黒板、パソコン等のICT機器を教員が利用しやすいように整備する。また、使用方法等について紹介する。 ・外部講師等によるICT機器を活用した授業に関する研修を行う。 ・本校教諭を講師とし、ICT機器の授業での活用についての研修を行う。 ・互見授業月間等を利用してICT機器を活用している授業の参観を行い、事後に意見交換等を行う。 ・校外の研修会に参加し、校内で伝達する。 ・児童生徒の実態に応じてICT機器を活用した授業実践を行う。 ・ICT機器を活用した事例を蓄積し、「ICT機器活用事例集」としてまとめる。 ・ICT機器の活用事例の報告会等を実施する。 	
達成度	ICT機器活用に関する研修会の実施回数 4回	ICT機器活用例 15事例
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器活用に関する研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・互見授業期間中に、ICT機器を活用した授業を紹介した一覧表を作成し、授業参観を促した。 ・ICT機器を活用して授業を行っている教員を講師に研修会を実施し、アプリケーションの紹介とその使い方や使用場面について研修を深めた。(8月) ・外部専門家を講師に招き、執務用パソコンやインターネットを使用する際のモラルや情報セキュリティについて研修を行ったり、タブレット端末やパソコン等のICT機器を活用している授業を参観していただき、事後の研修会で改善案や新たな取り組みについて助言をいただいたりした。 ○事例集の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・授業で利用しているしているパソコンやタブレット端末、VOCA等のスイッチ教材等のICT機器の活用方法の事例を「ICT機器活用事例」としてまとめた。 ○情報セキュリティに関する研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用のために、情報セキュリティの知識をもっていることが必要であり、パソコンやインターネットを使用する際のモラルや情報セキュリティについての研修会を行った。 	
評 価	A	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の積極的な活用が、今までにないコミュニケーションや学習への意欲につながる。 ・情報機器やソフトは、常に新しいものが提案されるため、日常的に情報収集をし、定期的に専門家からのアドバイスを受けるとよい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器活用を一層推進するために、互見授業や授業研究、活用事例の紹介等を継続して行う。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

平成28年度 富山総合支援学校アクションプラン - 3 -

重点項目	学校生活	
重点課題	歯磨きや口腔ケアの充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒は給食後に歯磨きを行っているが、口腔ケアについての関心や意識はやや薄く、日常生活の中で習慣化されていなかったり、磨き方が不十分なところがみられる。 ・教師の支援により、歯磨きを行っている児童生徒のなかには、口腔内を触られることに抵抗があったり、口を開け続けることが難しく、口腔ケアを充分に行うことができない児童生徒がいる。 ・水分を経口摂取することが難しい児童生徒にとって、日常的な口腔衛生を整えることが難しい。 	
達成目標	歯磨き、口腔ケアに関する個人目標達成率	
	自分で磨く児童生徒 80%以上	教員の支援で磨く児童生徒 95%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の歯磨きや口腔衛生に関する実態を把握して、磨き残しをなくすこと、歯磨きの習慣化、口腔の過敏軽減など一人一人の児童生徒の口腔ケアに関する個人目標を設定する。 ・1か月おきに目標への取組状況をチェックし（1週間）目標達成状況を確認する。 ・歯磨きや口腔ケアの大切さや技能につながる集会や授業を行い、口腔ケアに対する意識を高める。 ・歯磨きの仕方についての教材等を紹介し授業や指導に生かす。 ・障害の重い児童生徒の口腔ケアの方法について実地研修を実施する。 	
達成度	個人目標達成率 自分で磨く児童生徒81% 教員の支援で磨く児童生徒100%	
	全校集会の開催 1回 歯磨き教室の開催 4回（小2回、中1回、高1回） 歯磨き広場の開催 2回（参加者のべ100名） 個別の歯磨き指導の実施 1回（中、高） 歯磨きに関する授業の実施 1回（高）	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の歯磨きや口腔衛生に関する個人目標設定 ・個々に昼食後の歯磨きの目標を設定し、目標への意識の継続を図るために1か月おきに達成度を確認しながら目標に達成に取り組んだ。 ・チェック期間には、昼食後の歯磨きの時間に校内放送で保健給食委員会の生徒が呼びかけやテーマソングを流し、意識の向上を図った。 ○歯磨きや口腔ケアに関する知識・技術の向上に向けた活動 ・歯と口の衛生週間のポスターを募集、掲示し、噛むことの大切さの校内放送を行った。（6月） ・全校集会で歯肉炎の話、ブラッシング指導、テーマソングの紹介をした。（6月） ・歯磨き広場の開催し、歯を磨く順番を示した視覚教材を活用した歯の磨き方の講習会を実施した。（11月） ・歯科衛生学院による歯磨き教室を開催し、歯科衛生指導及びブラッシング指導を行った。 ・自分で磨く児童生徒に個別に染め出しによる歯磨きの確認を行い、磨き方の再確認と指導を実施した。 ・学期に1回、通信を発行し、学校での取り組みの様子や歯磨きのポイント等を保護者に伝えた。 ○教員研修 ・教員自身が染め出しを行い、磨き方のコツを知り、児童生徒の支援に生かした。 	
評 価	A	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的な活動となるよう楽しみながら、重要性を理解させる取組が成果につながっている。 ・保護者と共通理解を図りながら、感染予防、口臭予防の観点からも、健康作りとして口腔ケアに継続して取り組んでほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に応じて、歯みがき、口腔衛生に対する意識、技術の向上に向けた指導の継続を行う。 ・家庭との連携を図り生涯を通じた健康づくりに向けて一貫した実践をすすめる。 ・口腔ケアに関わる基礎的な理論や実技の教員研修の充実を図る。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）